

川崎市多摩川サイン計画



平成21年 3月 川崎市多摩川施策推進課

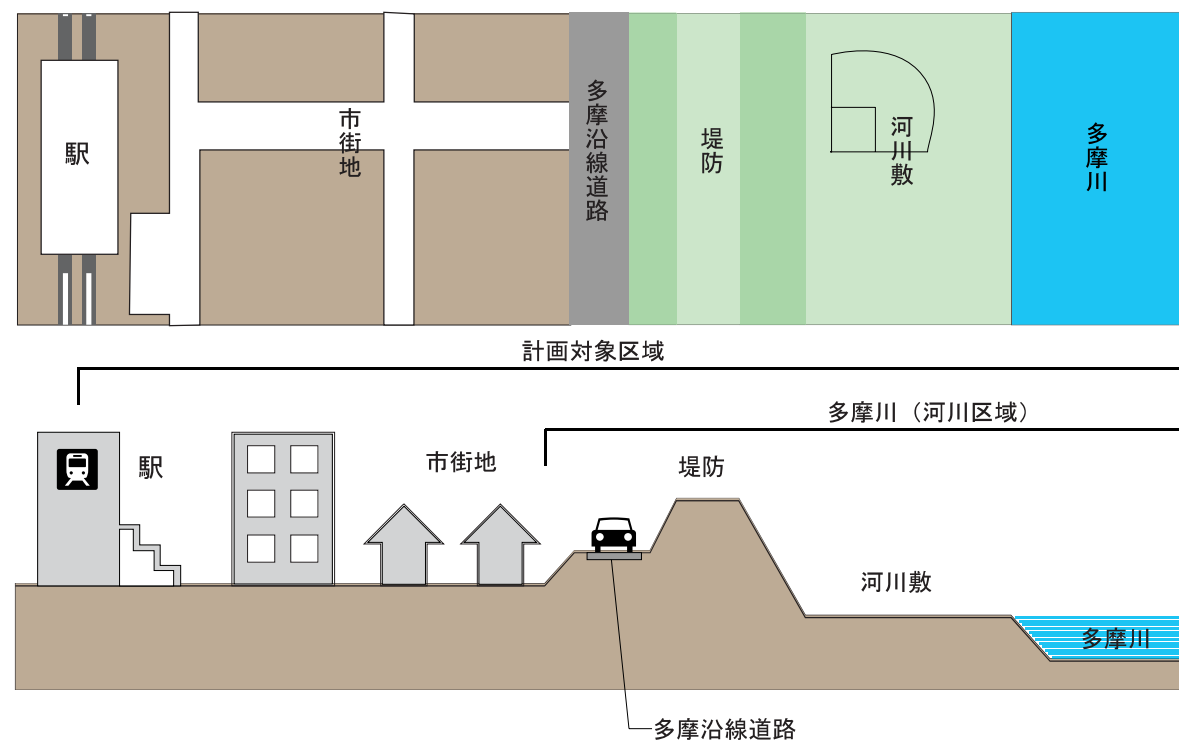
計画の目的

2005（平成17）年に策定した川崎市新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」では、多摩川をあらためて市民共有の財産と位置づけ、豊かな市民生活の実現に向けて、その魅力を最大限に活用し、多くの市民が楽しみ憩える環境の創出を目指すとしています。さらに2007（平成19）年に策定しました「川崎市多摩川プラン」では、多摩川の魅力を流域を含めた一人ひとりの市民が共有し、豊かな自然環境と多様な生命が共存しうる新しいライフスタイルを創造することを目標とし、7つの基本目標と30の施策の方向性をまとめています。

本サイン計画は基本目標の一つである「市民に身近な多摩川」の実現を目指すための施策の一つに位置づけられています。現在、多摩川へのアクセスは多摩沿線道路などにより市街地から分断され、また、最寄りの交通機関から多摩川、同様に多摩川から交通機関への案内機能が不十分であり、河川敷のサインのデザインも不統一で、景観上好ましくないものが見られます。本サイン計画では最寄りの交通機関から多摩川へのアクセスや、河川敷のスポーツ施設をはじめとする多摩川の利用者の利便性を考慮し、多摩川を訪れる誰もが必要な情報を的確に得られるよう、多摩川にふさわしい総合的なサイン計画を目指すものです。

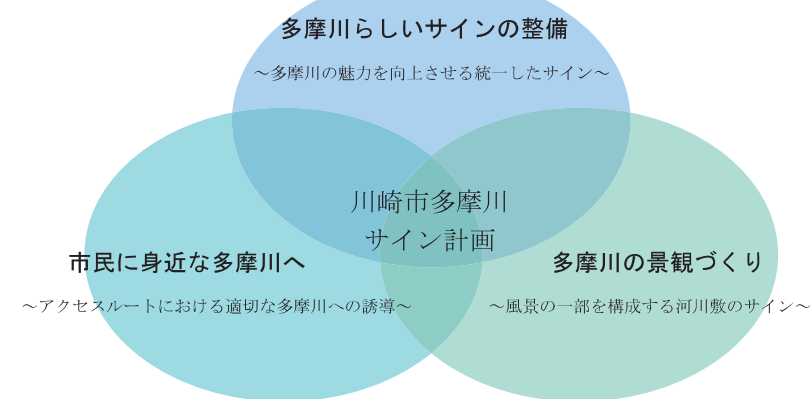
計画の対象区域

川崎市多摩川サイン計画では、多摩川における全てのサインを対象とするとともに、駅やバス停などから多摩川へアクセス場合に関係するサインについても対象とします。対象となるサインは、文字や数字、記号、地図など視覚的な存在によって、何らかの情報を伝えるものすべてとします。



計画の基本目標

「川崎市多摩川サイン計画」では、次の3つの基本目標を計画の柱とします。



① 多摩川らしいサインの整備 ~多摩川の魅力を向上させる統一したサイン~

これまで多摩川におけるサイン整備は必要に応じて対応してきました。しかし、それぞれの整備が個々に行われたため、サインの統一が図られていませんでした。またアクセスルート上のサインと河川敷のサインが連動していない側面もありました。このような問題を解消し、安全で快適な河川空間の創出のため、多摩川の利用者にとってわかりやすい、総合的かつ統一したサインの整備を行います。

② 市民に身近な多摩川へ ~アクセスルートにおける適切な多摩川への誘導~

多摩川を市民にとってより身近な空間にするためには、アメニティ施設の改善とともにサインによるアクセスの向上や安全性の確保が欠かせません。しかし、多摩川へのアクセスは、多摩沿線道路などにより市街地から分断されていたり、最寄りの駅からの案内が不十分な状況となっています。このような問題を解消し、市民に身近な多摩川の実現のために、駅やバス停などの公共交通機関から多摩川へのアクセスルート上において、サインによる適切な誘導を行います。

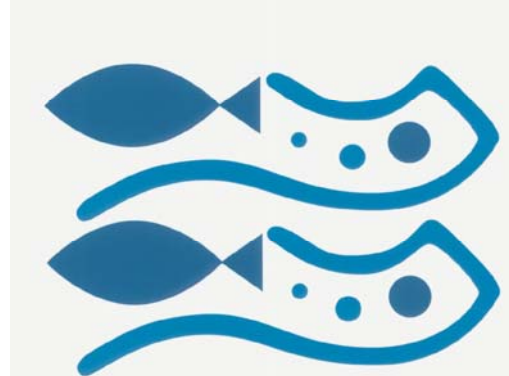
③ 多摩川の風景づくり ~風景の一部を構成する河川敷のサイン~

多摩川において、河川敷のサインは、多摩川の風景を構成する重要な要素です。しかしながら、これまでのサイン整備において、そのような視点は不十分でした。このような問題を解決し、貴重な水と緑の広大な河川景観を育て、次世代へ継承していくために、多摩川にふさわしい調和のとれた質の高いデザインで、感覚的にも機能的にも優れているサインの整備を行います。

シンボルマークの策定

多摩川の魅力を市民の皆さんに知っていただき、多摩川になじみ、誰でも必要な情報が的確に伝わり、多摩川を身近に感じていただくために多摩川をイメージした末永く親しみやすいシンボルマークを募集しました。応募総数132作品から最優秀賞1点、優秀賞4点、特別賞1点（小学生）を選びました。最優秀賞の作品は、今後多摩川におけるサインに使用するほか、多摩川関連のパンフレット等の各種広報媒体に積極的に活用してまいります。また、使用にあたっては、使用しやすいようにリファイン化するとともに、「川崎市多摩川シンボルマークデザイン使用基準」を策定し、シンボルマークの活用の際の基準をまとめています。

川崎市多摩川シンボルマーク最優秀賞



川崎市多摩川シンボルマークデザイン使用基準

